

1 題材名 対照の音楽を創ろう

2 題材の目標

表現したいイメージを持ち、音楽を形づくっている要素の働きをイメージとかかわらせながら、創作表現をする。

3 題材設定の意図

生徒がそれぞれのイメージを自己表現をする過程において、日常の様々な経験をもとに表現に向けて「構想」（表現の方法を思い描くこと）しはじめるとき、構成要素、表現媒体、形成原理など、いわゆる音楽を形づくっている要素の働きが、意識の対象として浮かび上がってくる。そこから生徒たちは個々のイメージとかかわらせて表現方法の探求に入っていくが、探求のよりどころとなるのが、生徒たち一人一人のやわらかな感性である。つまり、中学校音楽科における創作活動とは、生徒が自分の感性を生かしながら思考力や判断力を発揮し、音楽づくりをしていくことであると考えられる。

中学校学習指導要領の内容「A表現」(1)の「オ 短い歌詞に節付けしたり、楽器のための簡単な旋律を作ったりして声や楽器で表現すること。」を中心に扱っていく。「対照の音楽」という題材名の通り、生徒一人一人が設定した相対するテーマをもとに、相対する音楽を形づくっている要素に着目し、A(A-A')-B(B-B')-A(A-A')の形式の旋律を創作する。

本学級の生徒はとても明るく、授業中は自分の意見やアイデアを言い合うことができる雰囲気を持っている。歌唱やリコーダーなど、感じたままに生き生きと表現する生徒が多い。生徒は5月に、音階の中で使う音を限定したり、リズムパターンを決めておいたりする短い旋律創作を行った。これらの活動を通し、フレーズの切れ目には「続く感じ」と「終わる感じ（終止感）」があることを知り、終止音を意識して創作ができるようになった。また、同じメロディでも、強弱やテンポ、音高が異なると、大きくイメージが変わることを生徒自身が気づくことができた。

事前アンケート

1	あなたは、歌を歌うことが好きですか。	好き12人(39%)	ふつう18人(58%)	きらい1人(3%)	
2	あなたは、楽器を演奏することが好きですか	好き17人(55%)	ふつう12人(39%)	きらい2人(6%)	
3	あなたは、曲を創ることが好きですか。	好き7人(23%)	ふつう18人(58%)	きらい6人(19%)	
4	音楽の学習活動の中で、自分の思いや発想を生かせると思う順番に番号を付けて下さい。				
		歌	楽器	創作	鑑賞
1番に選んだ生徒	11人(35%)	12人(39%)	4人(13%)	4人(13%)	
2番に選んだ生徒	10人(32%)	6人(19%)	10人(32%)	5人(16%)	
3番に選んだ生徒	6人(19%)	5人(16%)	7人(23%)	13人(42%)	
4番に選んだ生徒	4人(13%)	8人(26%)	10人(32%)	9人(29%)	
5	音楽の学習活動の中で、自分の思いや願いを最も生かすことができる活動の形態はどれですか。				
	一人で言う3人(9%) グループで行う16人(52%) 全員で行う12人(39%)				

本学級の生徒たちは歌唱や器楽の活動に対しては、ほとんどが「好き」あるいは「ふつう」と答えているが、創作に関して「きらい」と答える割合が高い。また、「自分の思いや発想を生かせる場」として、創作活動を選んだ生徒の割合も他の表現活動に比べて低い。これらのことから、小学校時代からの創作の経験が深まっていないこと、また、記譜の基礎・基本の習得がなされていない生徒にとって、創作活動は自分の思いや発想を生かすことが難しいと感じていることが分かる。また、「自分の思いや願いを生かす形態」については過半数が「グループ学習」と答えた。

今回はそれらの実態を踏まえた上で、旋律創作を中心に行う。指導にあたっては、旋律を創作する前に、テーマに対するイメージをできるだけたくさんの言葉で書く活動を取り入れ、さらに、その言葉を音楽を形づくる要素の働きと結び付けて旋律を創作させることで、生徒たちの抽象的なイメージをできるだけ具体的なものにさせてから活動させたい。また、あらかじめ設定したリズムパターンや共通のテーマをもとに旋律を創ることで、旋律創作の基礎を学びながら、楽しんでできる活動にしていきたい。さらに、個人で創作活動をしていく過程で、その過程をお互いに聞きあったり、学級全体やグループ内で検討する場を設けたりすることで、お互いの作品のよさを認め合い、そこから学びあうことを十分に認識させていきたい。

4 教材について

・ バレエ音楽「ダフニスとクロエ」第2組曲より「夜明け」(ラヴェル 作曲)

あらかじめ設定したテーマ「朝(夜明け)」に関する参考作品として鑑賞する。バレエ音楽からの抜粋曲で、『少しずつ明るくなり、太陽が昇り始めると、鳥たちのさえずりも聴こえてくる。羊飼いの一群が現われて、ダフニスを目覚めさせ、恋人のクロエと抱擁する。太陽はしだいに昇り、燦然とした輝きを放つ。』という場面である。「夜明け」の表現方法として「クレシェンド」「低音から高音への移行」「音色の変化」など、生徒が音楽を聴きながら自然にこれらの要素を感じ取り、様々な夜明けの表現方法を知りたい。

・ 管弦楽組曲第1番ハ長調 BWV. 1066より「ブーレ」(バッハ 作曲)

バッハによって書かれた管弦楽組曲第1番の第6曲にあたる。この曲は、ハ長調で快活な《ブーレ1》と対照的なハ短調の《ブーレ2》からできている。A-B-Aの形式を理解するとともに、相対する要素(「音の長さ」「強弱」「速度」など)の違いが生み出す表現効果を感じ取り、自分たちの創作に生かしていきたい。

5 題材の評価規準及び学習活動における具体的評価規準

	ア 音楽への関心・ 意欲・態度	イ 音楽的な感受や 表現の工夫	ウ 表現の技能	エ 鑑賞の能力
歌唱				
器楽				
創作	○	○	○	
鑑賞	○	○		○
題材 の 評 価 規 準	音楽を形づくっている要素の働きをイメージとかかわらせて創作表現をしたり、鑑賞をしたりすることに意欲的である。	音楽を形づくっている要素の働きをイメージとかかわらせて創作表現を工夫したり、要素の働きが生み出す楽曲の雰囲気や曲想を感じ取ったりする。	音楽を形づくっている要素の働きをイメージとかかわらせて創作表現をする技能を身に付けている。	音楽を形づくっている要素の働き及びそれらが生み出す楽曲の雰囲気や曲想を意識し、楽曲全体を聴く。
学習 活 動 具 体 の け る 評 価 規 準	①表現したいイメージや曲想を、音楽に関する用語や言葉を用いて表現することに意欲的である。 ②表現したいイメージや曲想を、構成の秩序(反復や終止感、高揚)や速度、強弱の働きとかかわらせて創作表現をすることに意欲的である。 ③互いの作品のよさを見つけながら、関心を持って活動する。	①構成の秩序(反復や終止感、高揚)や速度、強弱とイメージをかかわらせて創作表現を工夫したり、要素が生み出す楽曲の雰囲気や曲想の変化を感じ取ったりする。 ②反復や対照による楽曲構成の形式を意識し、それらが生み出す表現効果を感じ取る。	①表現したいイメージや曲想を、構成の秩序(反復や終止感、高揚)や速度、強弱の働きとかかわらせて創作表現をする技能を身に付けている。	①構成の秩序(反復、高揚)や速度、強弱の働きによって生み出される楽曲の雰囲気や曲想を意識する。 ②反復や対照による楽曲構成の形式を意識し、楽曲全体を聴く。

6 学習と評価の計画(6時間扱い)

次	時	ねらい	主な学習活動	評価の観点				具体的評価規準
				関	感	技	鑑	
第一 次	1	○ テーマを決めて、そのイメージにあった旋律を創作する。	○ 教師が提示したテーマの中から、最も表現したいものを1つ選び、そのイメージや曲想を音楽に関する用語や言葉を用いて表現する。	◎				ア-①
	2		○ リズムパターンに音高をつけ、A-A'の8小節の旋律を創作する。	○		◎		ウ-①, ア-②
	3 時		○ 創作経過を発表し合い、創作の発想を広げ、作品の練り上げを行う。		◎		○	イ-①, エ-①
第二 次	4	○ 「対照の音楽」を創作する。	○ これまでに創作した作品の対照となるテーマから、B-B'の8小節の旋律を創作する。	○		◎		ウ-①, ア-②
	5		○ A(A-A')-B(B-B')-A(A-A')の形式について知り、創作経過を発表し合い、創作の発想を広げ、作品の練り上げを行う。		◎		○	イ-②, エ-②
	6		○ お互いの作品を発表しあうとともに、自己評価をし、学習のまとめとする。	◎				ア-③

7 本時の学習(第1次, 第3時)

(1) ねらい

創作経過を発表しあったり, 参考作品を鑑賞したりすることで, 創作の発想を広げ, 表現の練り上げを行う。

(2) 資料・準備

ワークシート, 鑑賞用CD, 拡大楽譜(生徒作品, 鑑賞作品総譜), キーボード等

(3) 学習の展開

学習活動・内容	教師の働きかけ(◆学習活動における具体的評価規準)
<p>1 本時の学習課題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>創作経過を発表し合い, 表現の練り上げを行う。</p> </div> <p>2 「ダフニスとクロエ」を鑑賞し, 作曲の技法について考える。</p> <p>(1) 曲全体を味わって聴き, 作曲家がどのような場面をイメージして作曲したのかを考える。</p> <p>(2) 音高と強弱の効果について考える。</p> <p>3 代表者の創作経過についての発表を聴く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 曲のテーマとそのイメージが, 創った旋律にどのように生かされているかを話し合う。 <p>4 発表された代表者の創作作品をよりイメージに近いものにするために, 各グループで検討を行う。</p> <p>(1) 創作経過を踏まえ, よりよい作品になるために, さらにイメージを具現化させる手立てを考える。</p> <p>(2) 話し合いの結果をもとに, それぞれの作品に対するアドバイスをを行う。</p> <p>(3) これまでの活動をもとに自分の作品を見直して, どのように工夫すると良いかを考える。</p> <p>5 本時のまとめを行う。</p>	<p>○本時の学習課題を常に意識できるように板書するとともに, 学習カードにもきちんと記入する。</p> <p>○学び合いの場であることを意識させ, 自分の作品の練り上げるための意欲付けになるようにしたい。</p> <p>○あらかじめ設定したテーマ「朝(夜明け)」に関する参考作品であると同時に, リズムパターン(♩♪♪)できている作品であることを伝えておく。</p> <p>○最初は曲全体を味わって聴き, 音楽を形づくる要素についての感想を持った生徒の発言を取り上げて, 構成の秩序や速度, 強弱の変化に気づくようにする。</p> <p>○拡大総譜を用意し, 自分たちが創った曲との記譜上の違いを考えることで, さらに要素の変化に気づかせたい。</p> <p>◆構成の秩序(反復, 高揚)や速度, 強弱の働きによって生み出される楽曲の雰囲気や曲想を意識する。 (エー①)</p> <p>○テーマからどのようなイメージで音楽づくりを行ったかを発表し, 聴くポイントとしたい。</p> <p>○グループは生徒同士のかかわり合いの場として設定し自由な話し合いができる雰囲気を作っていく。また, 生徒同士の意見交換を通して, 多面的な視点から創意工夫を深められるように支援する。</p> <p>○あらかじめ, 高揚や速度, 強弱, 音高などの要素を提示しておき, 作品に対するアドバイスと要素との関連が分かるようにしたい。</p> <p>○自分の作品の工夫する点についてワークシートに記入することで学びの成果が分かるようにする。</p> <p>◆構成の秩序(反復や終止感, 高揚)や速度, 強弱とイメージをかかわらせて創作表現を工夫したり, 要素が生み出す楽曲の雰囲気や曲想の変化を感じ取ったりする。 (イー①)</p> <p>○次時からは本時で学んだことをより発展させ, 異なる雰囲気を持った「対照の音楽」を創作することを告げる。</p>

8 本時における観点別評価の生かし方

【鑑賞の能力】	
評価規準	評価方法・Cと判断される状況への働きかけ・Aと判断するキーワード
エー① 構成の秩序（反復，高揚）や速度，強弱の働きによって生み出される楽曲の雰囲気や曲想を意識する。	【評価方法】 ・挙手や発言の内容，表情などを観察し，学習カードへの記入からとらえる。 【Cと判断される状況への働きかけ】 ・拡大楽譜中の記号などをヒントとして与え，注目するように助言する。 【Aと判断するキーワード】 <input type="checkbox"/> 反復の中の変化 <input type="checkbox"/> 曲の盛り上がり <input type="checkbox"/> 自分の視点による記述
【音楽的な感受や表現の工夫】	
評価規準	評価方法・Cと判断される状況への働きかけ・Aと判断するキーワード
エー① 構成の秩序（反復や終止感，高揚）や速度，強弱とイメージをかかわらせて創作表現を工夫したり，要素が生み出す楽曲の雰囲気や曲想の変化を感じ取ったりする。	【評価方法】 ・グループによる創作作品の検討を通して，工夫している点を観察する。また，自分の作品を見直して工夫する点について，ワークシートへの記述からとらえる。 【Cと判断される状況への働きかけ】 ・鑑賞でおさえたポイントを確認するとともに，グループの話し合いに積極的にかかわっていくよう，助言する。 【Aと判断するキーワード】 <input type="checkbox"/> 反復の中の変化 <input type="checkbox"/> 終止感 <input type="checkbox"/> イメージにあった表現